

平成 24 年度 事業報告書

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

公益財団法人理想教育財団

平成 24 年度 実施事業の内容

【A】調査・研究事業 【 31,068,799 円】

A-1 学校情報伝達システムの調査・研究 (1,830,749 円)

1. 仙台市八乙女中学校区の合同研修会に、講師として田中博之先生(早稲田大学教職大学院教授)を派遣した。講演テーマ「フィンランドメソッドによる言語力の育成」 参加者 100 名 (7 月 13 日)
2. 倉敷市立琴浦南小学校で開催した児島地区小中学校の教師を対象にした研修会に、講師として吉成勝好先生を派遣した。テーマ「通信づくりのための研修会」 参加者 30 名 (7 月 25 日)
3. 多賀城市教育委員会主催の平成 24 年度初任者・講師等対象研修会に、講師として柵木弓先生を派遣した。テーマ「学級通信のつくりかたと活用について」 参加者 23 名 (8 月 10 日)
4. 京都市小学校長会左京北支部夏季研修会に、講師として田中博之先生を派遣した。講演テーマ「学級力が育つワークショップ学習」 参加者 50 名 (8 月 20 日)
5. 京都市安祥寺中学校区小学校合同夏季研修会に、講師として田中博之先生を派遣した。講演テーマ「活用型学力を育む授業づくりと学級づくり」 参加者 79 名 (8 月 21 日)
6. 京都市小学校教育研究会の青年教員・幹事研修会に、講師として田中博之先生を派遣した。講演テーマ「子どもの総合力を育てる学力調査を利用した授業づくり」 参加者 180 名 (9 月 14 日)
7. 広島市教育センター主催の土曜特別セミナーに、講師として田中博之先生を派遣した。講演テーマ「明日の授業からすぐ使える!子どもの心をつなぐ新しい学級づくり」 参加者 80 名 (9 月 15 日)
8. 東洋大学の教職実践演習に、講師として吉成勝好先生を派遣した。テーマ「学級通信づくり講座」 受講者 文学部教育学科 4 年生 46 名 (10 月 22 日、29 日)
9. 京都市教育委員会他主催の NIE 実践教育研修会に、講師として田中博之先生を派遣した。講演テーマ「言葉の力を育てる活用学習～新聞づくりを通して～」 参加者 40 名 (10 月 26 日)
10. 広島市立五日市南中学校の校内研修会に、講師として田中博之先生を派遣した。講演テーマ「学級力を育成するための学級経営のあり方」 参加者 35 名 (1 月 9 日)

11. KOCHI 総合的な学習研究会主催の KOCHI 総合セミナーに、講師として田中博之先生を派遣した。講演テーマ「学級力を育てる学級経営と学力向上」 会場:高知市立江ノ口小学校 参加者 教育関係者 30 名 (3月9日)

A-2 教師による自作教材の調査・研究 (446,128 円)

2色プリントの効果的利用に関する調査・研究のまとめとして制作した「2色プリントの活用事例」を配布した。

A-3 児童・生徒による創作表現活動の調査・研究 (28,791,922 円)

「はがき新聞の教育効果に関する調査・研究」

新学習指導要領に準じた言語活動の充実を果たしつつ、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を高めるための教育としてはがき新聞づくりを推奨。本事業を推進のため、全国から実践研究校を募集し、実践研究用のはがき新聞用原稿用紙及び複写用のスキャナー付プリンターと関連消耗品を助成した。今年度の実践申込校は95校となり、その実践研究の成果の一部は実践レポートとして「季刊理想」へ掲載した。

<主な活動内容>

1. はがき新聞研究会

研究会報告書①「はがき新聞を使った授業づくりーその教育効果と授業実践例ー」を刊行し、実践研究校他に配布した。

また、朝日新聞社が運営するウェブサイト「朝日 Teachers' メール」に、はがき新聞づくりの教育効果や実践例を紹介するコーナーを設置してもらい、だれでも閲覧できるようにした。毎月のコンテンツをはがき新聞研究会の先生方に寄稿してもらった。

2. 平成24年度特別助成を実施

①はがき新聞の校内掲示用レイアウト用紙(B2サイズ)の助成

授業で制作した児童生徒の作品を、校内掲示するための用紙として使用、また、本用紙は壁新聞を制作する用紙として兼用で使用可能。

助成数 161件 6,880枚 (3月31日現在)

②PC用新聞作成用ソフト(お試し版)の無償提供

こども向新聞作成ソフトとして開発されたもので、A3版～はがき新聞までの作成用テンプレートが入っており、容易にパソコンでの編集が可能となるもの。ソフト開発会社の支援を受け無償で希望者個人(教師)に配布した。本ソフトは各種通信づくりにも活用できる。

助成数 筆まめ社「子ども新聞編集長」 283枚

スズキ教育ソフト社「伝えるチカラ PRESS」 142枚 (3月31日現在)

3.「学級力向上研究会」への研究委託（主催：早稲田大学教職大学院教授 田中博之）

研究テーマ：子どもが学級新聞とはがき新聞を通して学級力向上プロセスを報告する授業方法の解明

研究目的：小中学校における学級経営の新しい方法として、児童が自らの学級力向上の取組みについて、学級新聞及びはがき新聞を作成・発行する力を育てる授業のあり方を明らかにすることをねらいとする。

本研究委託は平成 23 年に続き継続している。

<第 1 回発表会> 11 月 3 日 新大阪ビル会議室

発表者 豊中市立中豊島小学校 蛭谷みさ先生、堺市立浜寺小学校 森崎章代先生他

<第 2 回発表会> 3 月 2 日 新大阪ビル会議室

発表者 豊中市立中豊島小学校 蛭谷みさ先生、福岡市立原西小学校 岩下涼子先生、尾張旭市立東中学校 村瀬琢也先生、同 彦田泰輔先生、堺市立浜寺小学校 森崎章代先生

4. その他

①京都市小学校 NIE 実践研究会と京都市中学校新聞教育・NIE 研究会共催の研修会に、講師として宮前嘉則先生を派遣した。内容「各教科における言語活動の充実に向けて－はがき新聞の具体的な活用場面を考える－」 参加者 25 名（5 月 25 日）

②千葉県市川市新聞研究会の実践発表会で塩焼小学校山田先生のはがき新聞の実践発表を支援した。 参加者 20 名（6 月 13 日）

③広島市教育センター主催の 6 年次教員研修に、講師として吉成勝好先生を派遣した。内容「はがき新聞を使った授業づくり」 参加者 88 名（7 月 24 日）

④大阪府小学校国語科教育研究会が開催したはがき新聞講習会を支援した。堺市立竹城台小学校徳永加代先生の講師で、はがき新聞づくりを通し思考力・判断力・表現力を高める国語科学習指導の実践例報告とワークショップを開催した。参加者 50 名（9 月 4 日）

⑤大阪市第 8 ブロック国語科研究会（主催：天王寺地区中学校国語科研究会）にて、はがき新聞づくりの実践を支援した。テーマ「読書のすすめ」 参加者 20 名（9 月 6 日）

⑥京都古文化保存協会他主催「第 50 回小中学生記者の文化財取材コンクール」（北野天満宮）を後援した。はがき新聞部門で理想教育財団賞を授与した。（11 月 3 日～11 日）

⑦熊本日日新聞社「第 2 回楽しく作ろう夏休みはがき新聞コンクール」を支援した。表彰式：熊本日日新聞社本社ホール 出席者 200 名（10 月 6 日）

⑧埼玉県鴻巣市立赤見台第一小学校の校内研修会ではがき新聞づくり講習会を開催、講師として小谷野弘子先生を派遣した。参加者 20 名（1 月 17 日）

⑨西九州大学のはがき新聞づくり講習を支援した。「今年度の授業を振り返り、感じたことをはがき新聞にまとめる」本製作は、筆まめ社の新聞ソフトを使い PC で作成した。

受講者 こども学部 90 名

⑩熊本大学教育学部情報教育研究会主催(日本教育新聞社企画)の「コミュニケーションワークショップ」においてはがき新聞ワークショップを開催、講師として宮前義則先生を派遣した。参加者 30 名 (1 月 26 日)

⑪大阪総合保育大学のはがき新聞づくり講習を支援した。テーマ「国語科授業を振り返り、論理的文章の書き方をはがき新聞形式で作成する」 受講者 140 名 (1 月 28 日) 尚、作成した作品は作品集に編集し配布した。

【B】情報提供事業【 17,132,442 円】

B-1 教育関連出版物の刊行 (470,584 円)

「通信づくりハンドブック」「通信づくりの知恵袋」の配布

B-2 研究情報誌の発行 (12,377,989 円)

機関誌「季刊理想」の発行

B-3 ホームページの運用 (4,283,869 円)

財団事業の告知や活動報告、情報開示等を発信した。

(参考) 3 月度アクセス状況：月刊訪問者数 4,991 人 内新規訪問者平均は約 84% 学級新聞をつくるにあたって参考となるサイトを探している方のアクセスが多い。

【C】助成・顕彰事業【 45,575,562 円】

C-1 後援・支援の事業 (4,827,749 円)

1. 書教育推進策として、「書家指導による自由書制作出前授業」を実施し支援した。自由書制作という過去経験のない授業のため、事前に教師向指導会を開催し、当日は子ども達に事前にテーマを与えて自分が選んだ漢字を自由闊達に竹紙に表現した。

子ども達の感想は、習字の授業と違い、墨の代わりにカラーインクを使用し自由に表現するという初めての体験であったが、新鮮で楽しく書くことができた。又同じことばを書いても人によって表現が全く異なることが分かった等の意見が出された。校長先生からは、自分を表現することの大切さと、表現する力をつけることの重要性を指導された。当日制作した作品の中から、各学校 10 作品を第 20 回「臨書と自由書作品コンクール」へ応募された。

出前授業の実施校

東京都北区立東十条小学校	6年生 62名	6月9日
東京都東村山市立回田小学校	6年生 60名	7月17日
東京都武蔵村山市立第五中学校	1年から3年の希望者 30名	6月30日

2. 兵庫県西宮市越木岩公民館主催の「夏休みこども科学教室」において、自由書制作の授業としてオリジナルエコバック作りを支援した。受講者 20名 (7月28日)

3. 日中国交 40 周年記念事業 特別展「日中友好書画展」に協力参加した。(主催事務局: 株式会社書道芸術社 後援: 外務省・観光庁・中国駐日大使館文化部) 会場: 日中友好会館美術館ホール (8月17日) 羽山理事長、酒井専務理事の作品を出展した。

4. 第 20 回臨書と自由書作品コンクール(主催: 児童の書を考える会 代表 高橋里江) を共催した。展覧会を9月12日から17日まで、東京芸術劇場(東京豊島区)ギャラリーで開催した。(後援: 東京都教育委員会 協力: 中越パルプ工業株式会社)

今年度は第 20 回の記念大会として開催、中国河南省開封市の子ども達から 6 作品の協力出品もあり展示した。コンクールの応募数は 397 作品で、大賞 1、準大賞 1、東京都教育委員会賞 5、理想教育財団賞 12、他各賞を展示した。表彰を 16 日(日)に会場にて実施した。期間中の来場者は 853 名。

5. 広島市「文化の祭典」(広島市教育委員会主催)を後援した。

C-2 新聞教育の普及・振興 (5,699,483 円)

1. 第 55 回全国新聞教育研究大会 十勝帯広大会(主催: 全国新聞教育研究協議会他)を後援した。会場: とかちプラザ 参加者約 200 名 (8月3日~4日)

大会主題「新たな教育課程を創造する新聞教育～思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり～」

初日、帯広市立啓西小学校 2 年生(講師: 森谷栄介先生)のはがき新聞づくりの公開授業と、二日目の研究分科会にて「小学校新聞づくり」の部において、池田圭子先生(音更町立下士幌小学校)からはがき新聞授業の研究報告がされた。

2. 第 62 回全国小中学校・PTA 新聞コンクール(主催 毎日新聞社・全国新聞教育研究協議会)を後援した。表彰式は 3 月 2 日毎日新聞社ホールにて開催され、理想教育財団賞を市川市立百合台小学校 6 年 2 組と東京都足立区立青井中学校 3 年に授与した。

3. 地域の活動支援

① 岩手県山田町立大沢小学校の学校新聞「海よ光れ」が全国コンクールで最優秀賞を受賞し、記念誌としての新聞集の製作を支援した。(5月21日)

② 第 46 回神奈川学校新聞まめ記者講習会を支援した。テーマ「新聞づくりを通して、子ども達の創造性を高め、他校の仲間との交流を図る」 参加者 神奈川県・東京都私立

小学校 139 名 教師 27 名 合計 166 名 会場:埼玉県秩父市 ホテル美やま (8 月 7 日～10 日)

③堺市教育センター主催の「新聞を活用した国語科授業の進め方とはがき新聞の実践」講習会を支援した。参加者 60 名 (8 月 29 日)

④市川市新聞研究会の授業研究会を支援した。参加者 25 名 (1 月 9 日)

⑤東京都大田区立中学校新聞コンクールを支援した。(表彰式 2 月 5 日)

⑥第 47 回北九州市小・中・特別支援学校・PTA 新聞コンクール(主催:毎日新聞社・北九州市新聞教育研究会)を後援した。理想教育財団賞の授与と広告掲載を実施した。参加者 300 名 (2 月 16 日)

⑦第 39 回東京都小中学校新聞コンクールを支援した。参加者 120 名(表彰式 2 月 23 日)

C-3 日本人学校等への支援・助成 (1,165,483 円)

海外日本人学校等への児童図書寄贈

海外日本人学校(補習授業校を含む)10 校に対し日本の図書を寄贈した。公益財団法人海外子女教育振興財団との連携により実施。

寄贈先

コロンボ(スリランカ)・杭州(中国)・台中(台湾)・ボゴタ(コロンビア)・アグアスカリエンテス(メキシコ)・補習授業校は、ミネソタ(米国)・モントリオール(カナダ)・ヨークシャーハンバーサイト(英国)・レンヌ(フランス)・ダルエスサラーム(タンザニア)

C-4 コンクールの開催・顕彰 (22,698,447 円)

第 8 回「プリントコミュニケーションひろば」は、一次審査会 4 月 14 日(小学校の部)、4 月 28 日(中学校・高校の部)を経て、5 月 18 日に最終審査会を開催した。

最優秀賞・理想教育財団賞に沖縄県浦添市立浦添中学校 金城安正先生の学校だより「不撓不屈」を選定。7 月 4 日浦添中学校を訪問し授与式を挙行了した。

また、第 9 回「プリントコミュニケーションひろば」は、1 月 2 日～3 月 31 日の作品募集期間中、688 作品の応募を受付けた。

C-5 東日本大震災被災校への特別支援事業 (11,184,400 円)

平成 23 年 3 月 11 日発生した東日本大震災によって被災した岩手県・宮城県の被災地教育委員会を窓口にして被災地の学校 99 校に対し希望図書・教材を寄贈した。

尚、取次業者は各教育委員会の指定する地元の被災した業者を優先し利用した。

寄贈先及び寄贈式の開催日

1. 岩手県宮古市教育委員会 7月30日開催 (小学校12校 中学校6校 計18校)
2. 岩手県山田町教育委員会 7月30日開催 (小学校9校 中学校2校 計11校)
3. 岩手県陸前高田市教育委員会 8月22日開催 (小学校9校 中学校6校 計15校)
4. 岩手県大槌町教育委員会 8月22日開催 (小学校5校 中学校2校 計7校)
5. 宮城県気仙沼市教育委員会 7月20日開催 (小学校20校 計20校)
6. 宮城県石巻市教育委員会 7月19日開催 (小学校12校 中学校3校 計15校)
7. 宮城県南三陸町教育委員会 7月20日開催 (小学校5校 中学校3校 計8校)
8. 宮城県女川町教育委員会 7月19日開催 (小学校3校 中学校2校 計5校)

本特別支援事業を推進するにあたり、昨年度から申請をしていた日本郵便(株) (旧郵便事業(株)) の年賀寄附金配分申請が採択され、本被災校への支援事業に500万円の助成を受け実施した。

今年度の特別支援事業に要した図書・教材購入代金の総額は、9,669,372円となった。

その他の事項

1. 会議の開催

①理事会・評議員会

- | | | |
|-----------|--------|---------------|
| 第5回理事会 | 5月25日 | |
| 第2回定時評議員会 | 6月15日 | |
| 第6回理事会 | 6月18日 | (決議の省略の方法による) |
| 第7回理事会 | 6月25日 | (決議の省略の方法による) |
| 第8回理事会 | 11月12日 | |
| 第9回理事会 | 3月22日 | |

②プリントコミュニケーションひろば企画会議

- | | | |
|-----------------|---------|-------------|
| 第8回一次審査反省会 | (小学校の部) | 平成24年8月20日 |
| 第8回一次審査反省会 | (中高校の部) | 平成24年9月15日 |
| 第9回最終審査会の運営について | | 平成24年12月18日 |

③はがき新聞研究会

- | | |
|--------------|-------|
| 平成24年度第1回研究会 | 6月23日 |
| 実務者会議 | 9月22日 |

2. 東日本大震災被災校への特別支援事業に係る寄附金を募集した。

対象：賛助会員・財団関係者他

期間：平成24年12月1日～平成25年1月31日

結果：156件 金額1,477,000円（3月末現在）

以上

〔補足〕

被災校への特別支援事業まとめ

事業年度	地 区	小	中	計	寄贈総額(円)	原 資(円)
平成 23 年度	陸前高田市、 釜石市、大船 渡市、大槌町	36	21	57	5,734,046	寄附金 2,214,042 財団予算 3,520,004
平成 24 年度	宮古市、気仙 沼市、山田町、 陸前高田市、 大槌町、石巻 市、南三陸町、 女川町	75	24	99	9,669,372	寄附金 1,677,398 年賀寄附 5,000,000 財団予算 2,991,974
		111	45	156	15,403,418	

(注)「寄附金」とは、平成 23 年 10 月に告知し賛助会員等関係者から集めた被災校への特別支援事業寄附金のこと

(注)「年賀寄附」とは、郵便事業(株)(現日本郵便(株))から受けた年賀寄附金配分助成金のこと

以上

【参考事項】

処務の概況

1. 役員等及び職員に関する事項

(1) 構成（平成25年3月31日現在）

役員	理事 10名（うち理事長1名、専務理事1名） 監事 2名
評議員	12名
職員	4名

(2) 異動

職名	氏名	異動日	備考
理事の退任	なし		
理事の新任	なし		
評議員の退任	なし		
評議員の新任	なし		
監事の退任	なし		
監事の新任	なし		
職員の退職	なし		
職員の採用	本田みゆき	平成24年4月1日	正職員

2. 役員会等に関する事項

(1) 理事会の開催

開催年月日	議事事項	会議の結果
平成24年5月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度事業報告の承認 ・平成23年度計算書類及び財産目録の承認 ・第2回定時評議員会の招集 ・理事候補者の選任 ・監事候補者の選任 	可決 可決 可決 可決 可決
平成24年11月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・役員報酬に関する件 ・規程の制定（助成及び顕彰交付要領、諸謝金に関する規程） 	可決 可決

平成 25 年 3 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年度事業計画及び平成 25 年度収支予算（正味財産増減予算書）承認 当法人の職員として、理想科学工業株式会社社員の出向を認める 	可決 可決
------------------	--	--------------

(2) 評議員会の開催

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 24 年 6 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> 平成 23 年度計算書類及び財産目録の承認 理事の選任 監事の選任 	可決 可決 可決

3. 認定・認可及び承認に関する事項

該当なし

4. 契約に関する事項

該当なし

5. 寄附に関する事項

寄附の目的	寄附者	申込金額	領収金額	受領日
公益目的 事業費と して使用	理想科学工業(株)	50,000,000 円	25,000,000 円 25,000,000 円	平成 24 年 6 月 29 日 平成 24 年 12 月 28 日
同上	156 名、社、団体	1,477,000 円	1,477,000 円	平成 24 年 12 月 1 日 から平成 25 年 1 月 31 日まで

6. 主務官庁(内閣府)への書類提出に関する事項

提出年月日	提 出 事 項	履行状況
平成 24 年 6 月 29 日	平成 23 年度事業報告等に係る提出	完了
平成 24 年 9 月 26 日	平成 24 年度事業報告等、別表 C (2) 修正提出	完了
平成 25 年 3 月 26 日	事業計画書等に係る提出	完了

7. その他特記事項

(1) 賛助会員（平成 25 年 3 月 31 日現在）

賛助会員	466（社・個人）	前年度	481（社・個人）
------	-----------	-----	-----------

以 上

※平成24 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないのでその作成はしていません。